

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.36

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

特集

子どもの頃の母親に会う

お母さんにだって子どもの頃があります。今はどんなに母親らしくふるまっていますか、元はといえば子どもなのです。そんな子どもの頃の母親に会うにはどうしたらいいか。ポピュラーな手段としてはタイムトリップですが、うっかりすると、子どもの頃のお祖母さんに会っていることもあるので要注意です。子どもの頃の母親は、昔の写真や日記や手帳から現れたり、幽霊だったりもします。物語は奇想天外で、お母さんもまた神出鬼没です。娘としては、目の前に現れた、その繊細で悩める女の子が子どもの頃のお母さんだなんて、俄には信じられませんが、この女の子は、どうやって、自分が知る、あの口うるさく気難しいお母さんになったのか。母親との関係に悩む娘たちが出会ったお母さんの子どもの頃。自分では解決できない複雑な問題に心を揺らしている少女が、ファンタジーの中でリアルを見つめ直すきっかけを与えられる絶妙な展開が待っています。



床下の古い時計

A HANDFUL OF TIME.

作者 キット・ピアンソン  
 翻訳者 葛西利行  
 出版社 金の星社  
 発行 1991年1月  
 ISBN 978-4323017372

review



ニュースキャスターの母親と有名ジャーナリストの父親を持つ十二歳のパトリシア。両親が離婚の取り決めのする間、一人で母親が子どもの頃に過ごしたアルバータ州の湖にあるコテージに滞在することになります。両親の離婚にパトリシアは苛まれていきます。最愛の父親は他の女のひとと暮らすことになるし、いつも支配的で心を閉ざしている母親のことをパトリシアは恐れていました。ある日の散策中にコテージの丸太小屋の床下から見つけた懐中時計。ねじを巻くとパトリシアは三十五年前の時間にタイムトリップします。その世界で十二歳の母親はどのように過ごしていたのか。支配的な母親である祖母との確執を抱えて、みじめで寂しい思いをしていた子どもの頃の母親を知り、パトリシアは母親に正面から向き合えるようになっていきます。



星に帰った少女

作者 末吉暁子  
 出版社 偕成社  
 発行 1977年3月  
 ISBN 978-4037270100

review



両親が離婚して、母親との二人の家庭で育ったマミ子は十二歳。忙しく働いている母親は、家のことまで気がまわらず、マミ子は寂しい思いをしています。このところ、お母さんとのすれ違いをマミ子は感じていました。再婚話もあり、気持ちも落ち着きません。その冬、マミ子は誕生日にももらった母親のおさがりのコートにポケットにしまわれていた古い回数券でバスに乗り、降り立ったバス亭で、母親と同じ名前を名乗る、自分に良く似た少女と出会います。その子が自分と同じように母親の再婚に気持ちを乱している境遇を知り、マミ子は親しみを覚えます。やがて、彼女が子どもの頃の母親だということにマミ子は気づきます。未分化だった母親と自分が、それぞれの幸せな生き方を求めていくことに思い至る鮮やかな成長物語として完成された見事な作品です。



いいたいことがあります！

作者 魚住直子  
 出版社 偕成社  
 発行 2018年9月  
 ISBN 978-4037272906

review



小学六年生の陽菜子は、お母さんにいいたいことをうまく言えませんが、中学受験のために塾に行かされたり、家の手伝いをさせられる。不満を言葉にできないままの陽菜子は、ある日、家の中で一冊の古い手帳を見つけた。そこには『わたしは、親に支配されたくない。わたしは、わたしの道を行きたい。』という自分の持ちを代弁する言葉が綴られていました。衝撃を受けた陽菜子の前にスージーと名乗る少女が現れます。陽菜子の想いを理解してくれるスージーもまた、自分の母親への不満を抱いていると言います。手帳を開くと現れるスージーに励まされ、陽菜子もまた自分の行きたい道を進みはじめます。自分の母親への不満を手帳に書き綴っていたスージーは子どもの頃の母親です。陽菜子は、子どもの頃の気持ちを忘れた、現在のお母さんに理解してもらえなかったのでしょか。



ラストラン

作者 角野栄子  
 出版社 KADOKAWA  
 発行 2011年1月  
 ISBN 978-4048741637

review



七十四歳のイコさんは年をとっても夢見がちで、冒険したい気持ちは変わりません。オートバイで旅に出たものの、年齢を考えると、これが自分のラストランになるだろうと思っていました。このラストランをめぐって五歳の時に亡くなった母親をめぐって旅です。母親が生きていた頃の記憶はなく、残された十二歳の時の写真だけがイコさんの中の母親でした。写真に写っていた家を探しあてたイコさんは、そこに十二歳の姿のままの子どもの頃の母親がいることに驚きます。ふーちゃんと言葉を十二歳の幽霊には、自分がイコさんの母親であるという自覚はありません。イコさんは、この自由で奔放な性格の十二歳のお母さんと一緒に旅に出ます。バイクの二人乗りで飛ばして、温泉施設に泊まる不思議な母親旅行。人生経験豊富な娘と未来を夢見る母親のユニークな物語です。

特集  
 子ども頃の母親に会う



ママは十二さい (服部千春) 講談社 2021年

まどかのママは児童書作家。十二歳の女の子の物語を書こうとして行き詰まり、自分を十二歳に戻して欲しいと願をかけてます。翌朝、自身は大人のまま十二歳の姿になってしまったママ。勝手な行動ばかりのママに手を焼きたがら、まどかはママを元に戻す方法を探しますが、どうやらママには子どもの頃に何か心残りがあるようです……

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.36

2023年3月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



@tomoostretch

Twitter  
 連携しています。